

## 第51回教諭師中央研修会

- 1 実施年月日 平成28年8月30日(火)～31日(水)
- 2 会 場 東京都千代田区霞ヶ関 法務省地下大会議室
- 3 参 加 者  
教諭師94名 聴講者7名 矯正施設関係者5名 その他関係者3名  
計109名
- 4 主 題 「薬物事犯者に対する教諭について」
- 5 基 調 講 演  
法務省矯正局成人矯正課長 松村 憲一氏  
「矯正の現状」-薬物依存離脱指導の新展開-
- 6 講 演  
「日本ダルク本部」代表、NPO法人「アパリ」理事長 近藤 恒夫氏  
「薬物依存者の孤立化」
- 7 講 演  
府中刑務所教育専門官 谷澤 正次氏  
「人のちから」
- 8 分 科 会 (班別討議)  
テーマ 「薬物事犯者に対する教諭について」(10班編成による、班別討議)
- 9 全 体 会
- 10 成 果

今年度の中央研修会研修参加者から総合評価として、研修テーマ、講演内容及び研修日程(1泊2日)等は適切であったと評価を受けた。

矯正施設に収容されている薬物事犯者の数は多く、教諭活動を行う上で教諭の対象者になる可能性が高いことから、薬物事犯者が抱えている特有な心の悩みや精神状況等について、講演を拝聴して多くの情報を得ることができた。

また、刑事施設に勤務している職員から刑事施設における改善更生プログラムの取組み等についての発表があり、更生意欲の喚起及び社会生活に適応できるための能力を向上させ、再犯、再非行防止のために様々な教育や指導が行われていることが理解できた。

分科会では、全国から集まった研修者が所属する施設の教諭活動状況や特色等について情報交換を行うとともに、薬物事犯者に対する教諭をどのように行っていくべきかについて討議することができ、有意義な研修会であった。

今後の課題として、所属する矯正施設側と情報交換を密に行い、施設における処遇との連携を取っていく必要があることへの意見が多く出されており検討を要する点として挙げられる。



